

建築主：学校法人 近畿大学
 設計者：株式会社NTTファシリティーズ
 宮崎政信 長島英介 岸本直也
 施工者：株式会社大林組



外観写真（撮影：近代建築社）

建築概要

建設地：大阪府東大阪市
 建築主：学校法人 近畿大学
 設計：株式会社NTTファシリティーズ
 施工：株式会社大林組
 建築面積：6,713㎡ 延床面積 28,266㎡
 階数：地上11階、地下1階 高さ：57.25m
 構造種別：鉄骨造（一部柱CFT造）
 鉄筋コンクリート造

選評

このプロジェクトは5棟の特性の異なる建物をマットスラブでつないだ約6,700㎡の建築面積を持つ免震建物である。マットスラブは1,800mmの厚さがあり、免震層上の重量の大きな部分を占めている。そのため、マットスラブ上に突き出る5棟の建物に対する地震応答は低減され、上町断層帯地震、及び南海トラフ地震のサイト波等に対しても、十分な耐震性を確保している。この免震形式の採用により、5棟の建物の設計は自由度が増し、高層棟では菱形に柱部材を配置した外殻構造を採用し、シンボリックな建物を実現した。また、5棟を一体化させていることにより建物間の人の行き来が自由な設計を可能とした。敷地の四隅に配置され建物の間は屋根の高さに複雑な変化を持たせて多くの開口のある建物でつなぎ、開放的な建築空間とした。この様なデザインにより文理の研究分野の異なる学生や教員が自由に、また入り混じって活動できるアクティビティー・ベースド・ワーキング的な空間を実現させた。以上の様に、免震構造の効果的な活用により高い耐震安全性を実現しながら、伸び伸びとした遊び感覚あふれる設計を実施したことと、この建物を実現させた建築主殿の判断を評価し、作品賞に選定した。（東野雅彦）

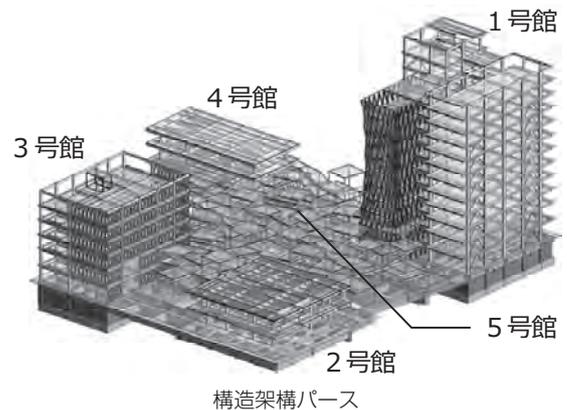
免震化した経緯及び企画設計等

本建物は近畿大学東大阪キャンパスにおける全校舎耐震化グランドデザインの一環で、既存校舎の建て替えを行い、大学の本部機能及び、図書館・講義室・学生ホールの機能を集約した建物として計画した。災害時における事業継続性の強化に加え、学生の避難受け入れが可能となるよう免震構造を採用した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

本建物は規模及び構造形式が異なる5棟を一体とした免震構造としている。各棟間の接続部を、EXP.Jを設けない連続した空間とすることで、特性の異なる5棟のつながりを一層高めている。

1号館はカテナリー曲線によって形成される外装デザインと構造フレームとが一体となった「外殻格子架構（ロンビクチューブ構造）」を採用し、シンボル性の高い建物としている。3号館は外壁面に木材ブレースを配置し、耐震要素及びルーバーとして機能させるとともにキャンパス内周辺建物の木質ファサードとの調和を図った。5号館はマットスラブを採用することにより、グリッドレスな柱配置架構及び合理的な免震配置を実現している。



構造架構パース



1号館外観（撮影：SS大阪）